

大学院特別講義のご案内

- 日時： 2026（令和8）年1月30日（金） 18:00～19:30
- 場所： 弓倉記念ホール
- 講師： 日本大学歯学部薬理学講座 教授 小林 真之 先生
- 演題： 島皮質における口腔顔面痛の情報処理メカニズム

(Mechanisms of Orofacial Nociceptive Information Processing in the Insular Cortex)

- 要旨： 島皮質は、三叉神経脊髄路核尾側亜核（Sp5C）、腕傍核（PBN）、扁桃体、視床腹内側核などを介して口腔顔面領域の疼痛情報を受容・統合する高次脳領野である。一方で、島皮質からこれらの神経核へ向かう下行性投射線維の存在も報告されている。我々は、島皮質からSp5Cおよび外側PBNへ投射する線維を、光遺伝学的小および化学遺伝学的手法を用いて特異的に活性化すると、顔面痛が増強されることを明らかにした。さらに、島皮質に発現する主要な抑制性ニューロンであるparvalbumin陽性細胞を特異的に活性化すると、侵害刺激に対する逃避行動が抑制されることを見出した。これらの結果は、島皮質の興奮性出力ニューロンが脳幹への下行性投射を介して顔面痛を制御していることを示唆している。本セミナーでは、二光子顕微鏡を用いたCa²⁺イメージングによる最新の知見も交えながら、島皮質が口腔顔面領域の疼痛制御に果たす役割について議論したい。